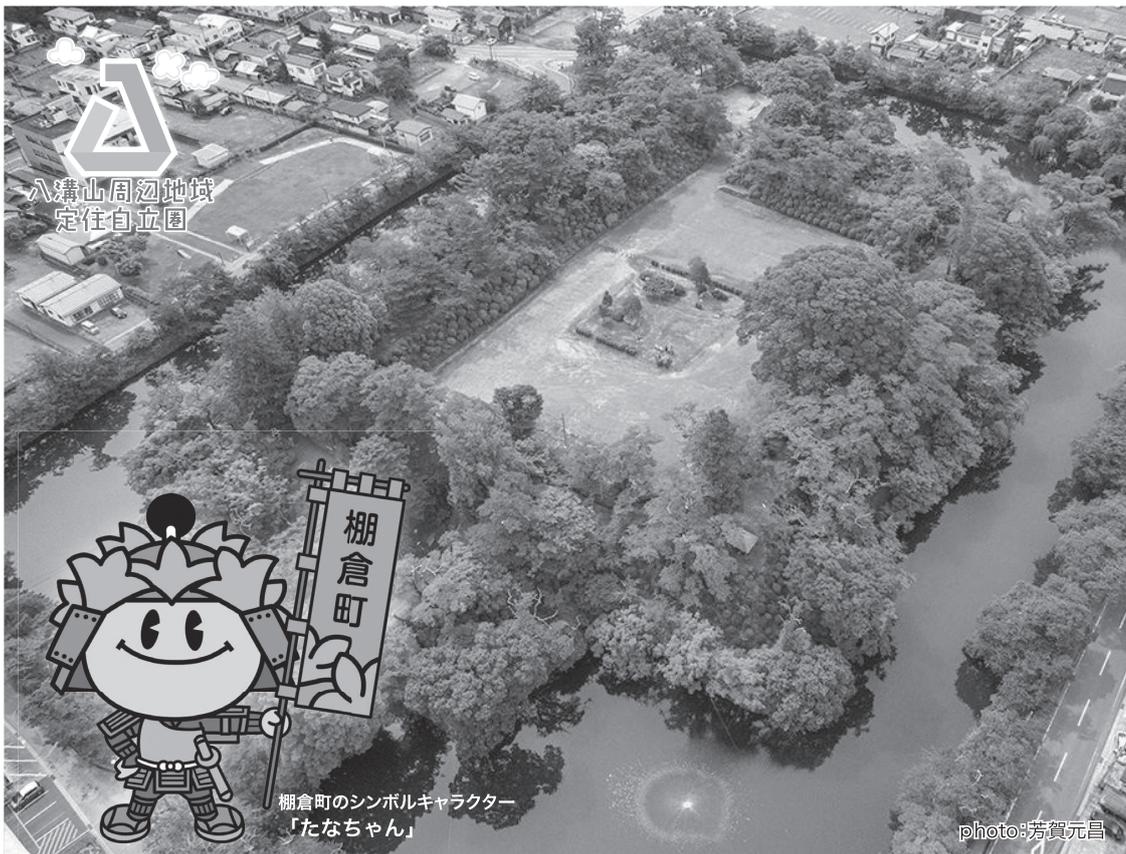


2025年

棚倉城 築城400年

東北の小京都たなぐら



元和8年(1622)に5万石の大名として棚倉藩主となった丹羽長重が、寛永2年(1625)に築城しました。常陸(茨城県)と境を接し、奥羽の玄関口に位置する要衝の地を押える役割があったと考えられています。長重は寛永4年(1627)白河へ移封となり、代わって棚倉藩主となった内藤信照によって、引き続き城の造営や城下の整備が行われました。その後、城主は8家、16代徳川譜代・親藩の家柄が入れ替わり、幕末の戊辰戦争では新政府軍と戦い落城しました。巨大な土塁と水堀で区画される長方形の本丸と、それを取り巻く二ノ丸、その北西の三ノ丸(林曲輪)からなる構造です。二ノ丸西側崖部には石垣が築かれています。本丸土塁上には二重隅櫓4棟、一重櫓1棟が建てられ、各櫓間を連結する多門櫓は東北地方の城郭では随一の規模でした。平成31年(2019)に、国の史跡に指定されました。

2025年棚倉城築城400年記念イベント

『たなぐら“まるごと”フェスタ』開催決定！

開催月日 令和6年10月20日(日)

開催場所 棚倉城跡内

※詳細は追って発表します。

お問い合わせ：棚倉町役場地域創生課歴史観光係 ☎0247-33-2112



この記事は、八溝山周辺地域定住自立圏の連携事業です。圏域の地域活性化につなげる取り組みの一環として、圏域市町のPR情報をお届けします。